

---

# 新型コロナウイルス感染症にかかる 県内の感染動向等について

---

対象期間 9月5日～9月11日

9月13日 健康医療福祉部感染症対策課

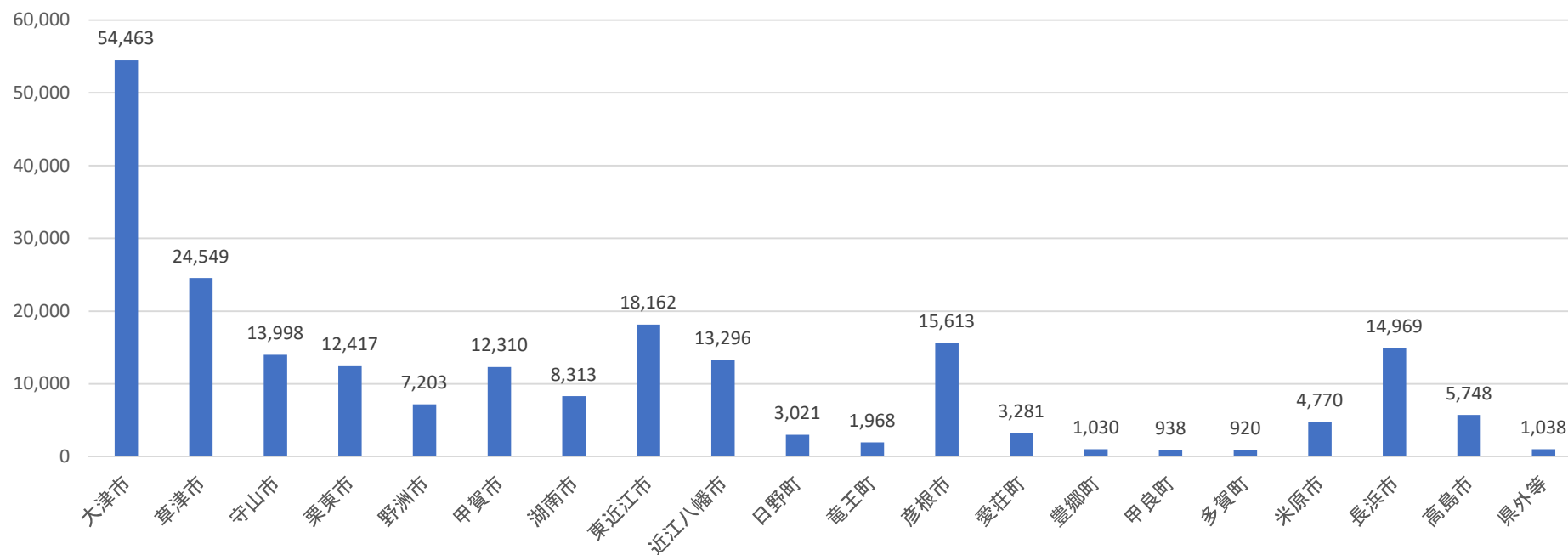


# 1、県内の感染状況について

## 1) 県内の陽性者発生状況

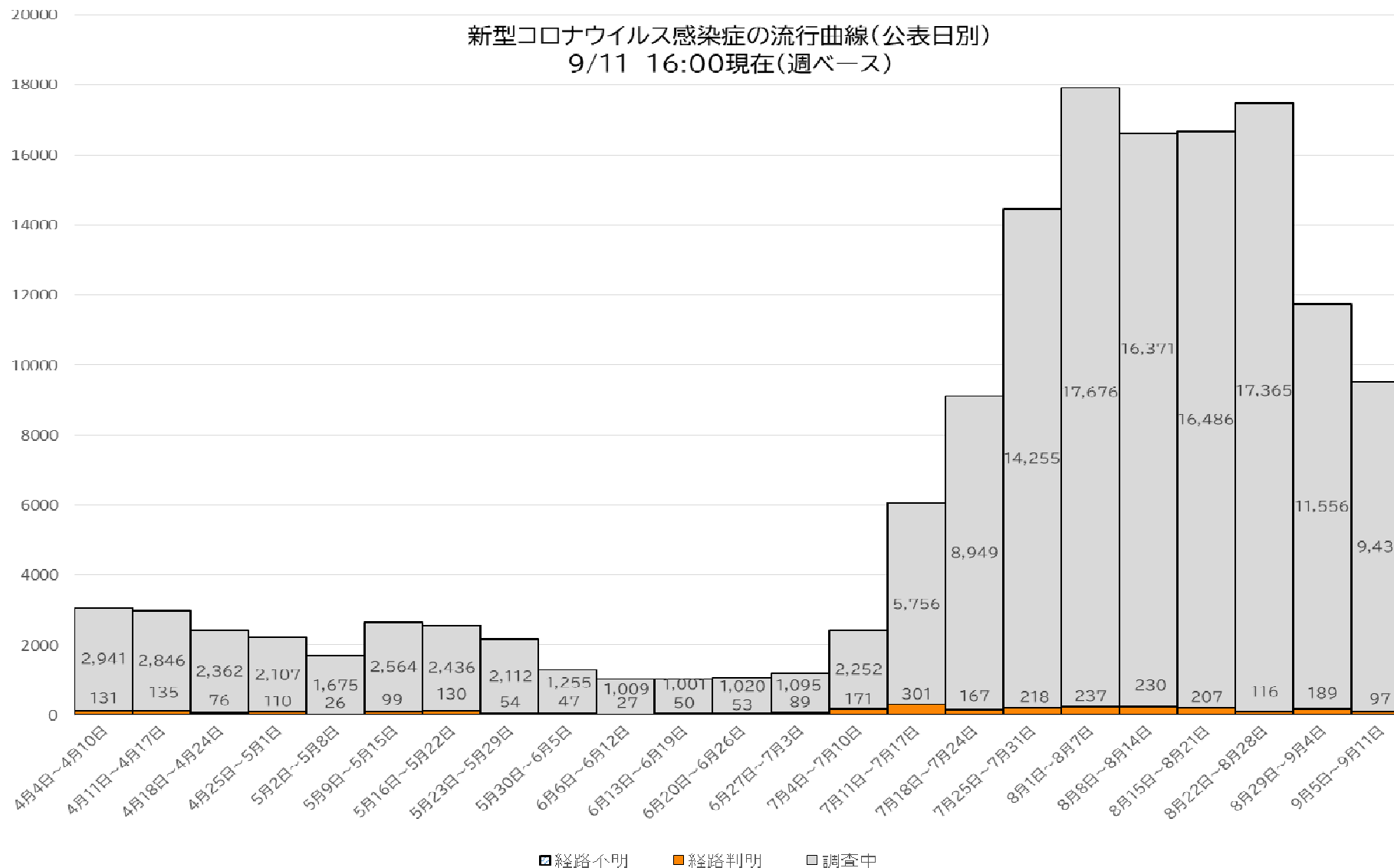
	新規感染者数
今週の報告数(9/5～9/11)	9527人
累計(9/11時点)	218,007人

## 2) 市町別の累計陽性者発生状況



### 3) 県内の感染動向

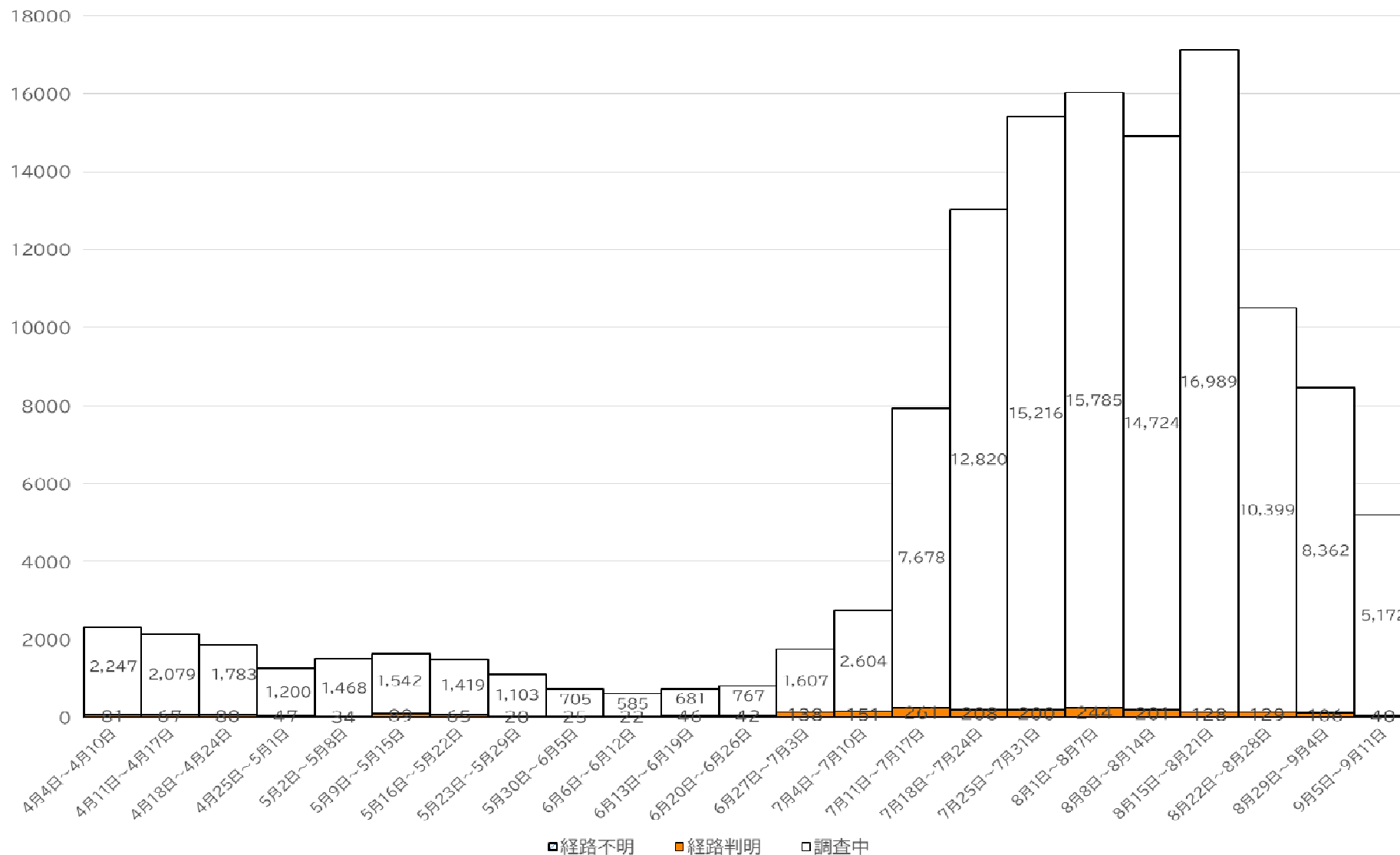
#### ① 流行曲線(公表日別)(9月11日現在)



流行曲線：感染症の流行を経時的に観察し、流行の特徴を把握することができます。

## ②流行曲線(発症日別)(9月11日現在)

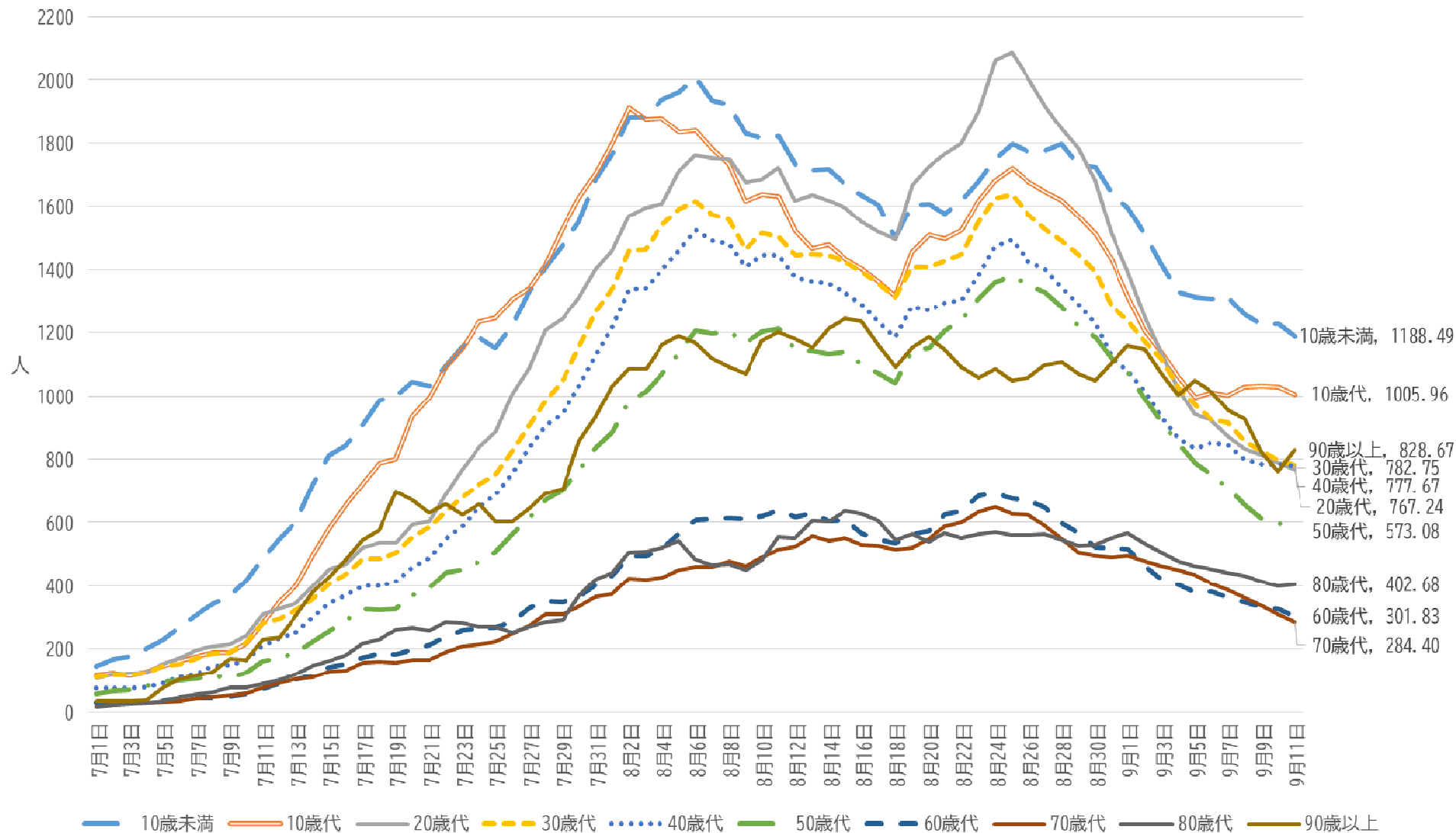
新型コロナウイルス感染症の流行曲線(発症日別)  
(無症状者は除く)9/11 16:00現在(週ベース)



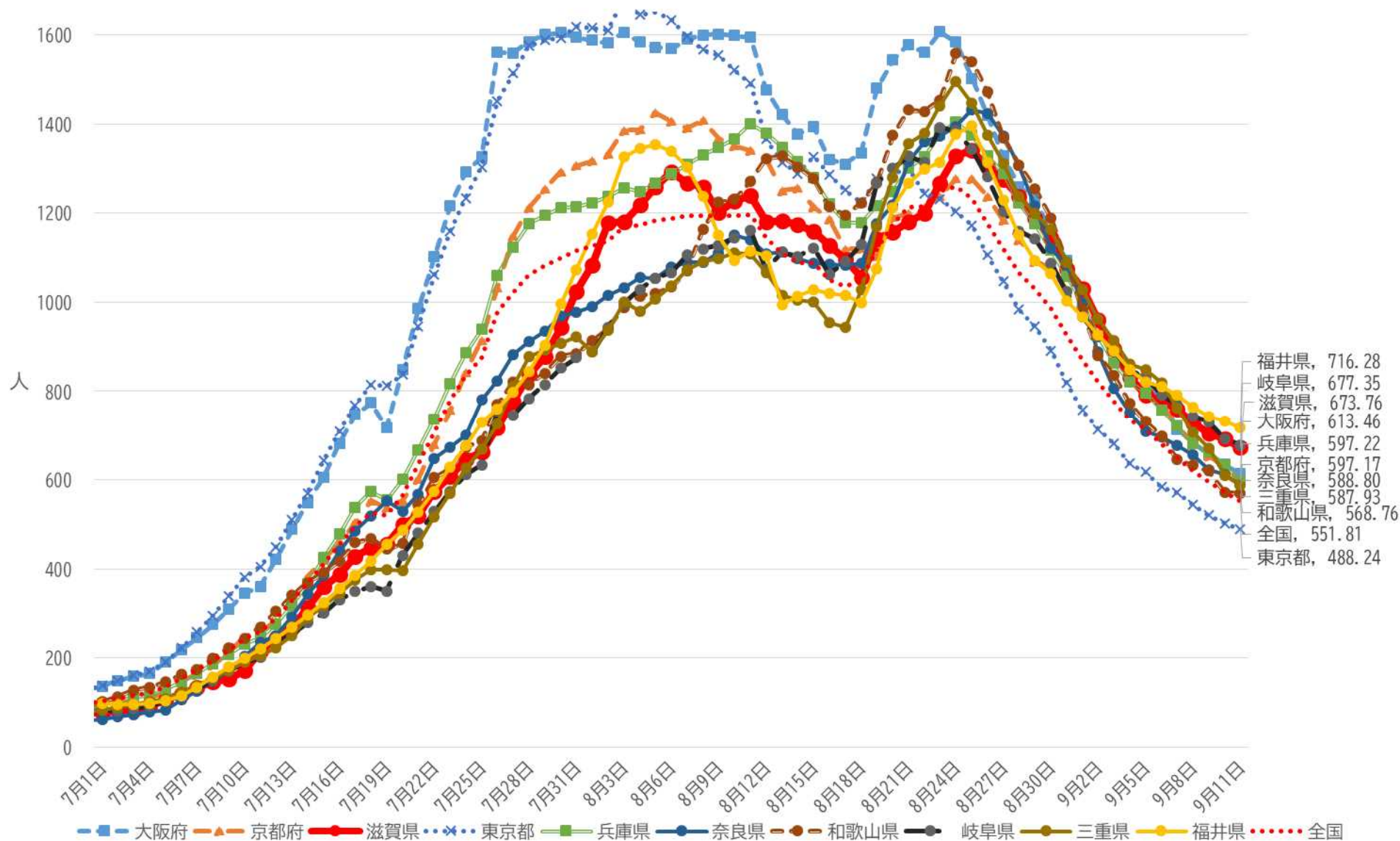
注)無症状者を計上していません。今後9/11以前に発症した患者が届出されることがあります。

# 4) 年代別 10万人あたりの新規感染者数推移

(公表日 直近7日間の累計患者数) (R4.7/1-9/11)



## 5) 近隣府県等の10万人当たりの新規感染者数の推移 (直近7日間の累計患者数) (R4.7/1-9/11)



## 2、県内の感染状況と体制について(9/11現在)

### 1) 県内の病床数および宿泊療養施設の状況

	県内 病床数					県内 宿泊療養 部屋数					
		入院者数			空床数		療養者数			清掃・修理 待ち	空数
			県内発生	その他				県内発生	その他		
総数	509	296	286	10	213	631	87	87	0	73	471

### 2) 県内の陽性者発生状況

項 目	陽性者数累計	現在 陽性者数							入院予定等	宿泊 療養	退院等	死亡
			入院中				入院予定等	宿泊 療養				
				重症	中等症	軽症						
PCR検査数	541,111											
(うち行政検査分	234,265)	218,007	10,957	286	5	67	214	10,584	87	206,750	300	
(うちその他検査分	306,846)	(PCR検査判明分	122,509)					(うち自宅待機	8)			
抗原検査数	375,658	(抗原検査判明分	95,498)					(うち自宅療養	10576)			

重症：人工呼吸器またはECMO(体外式膜型人工肺)が必要

中等症：酸素投与が必要または摂食不可能

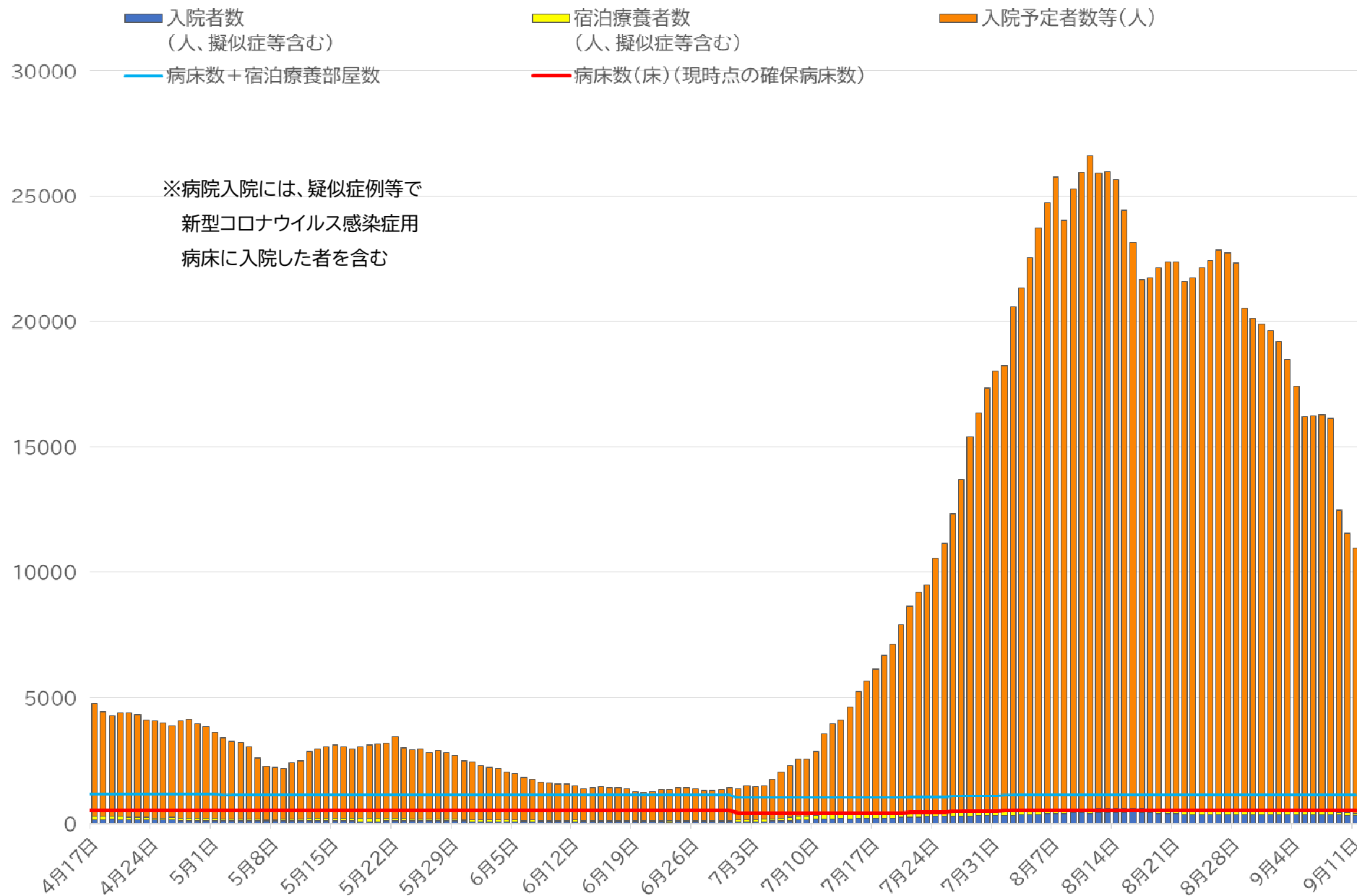
軽症：無症状または酸素不要、摂食可能

重症者以外のICU(集中治療室)利用者数

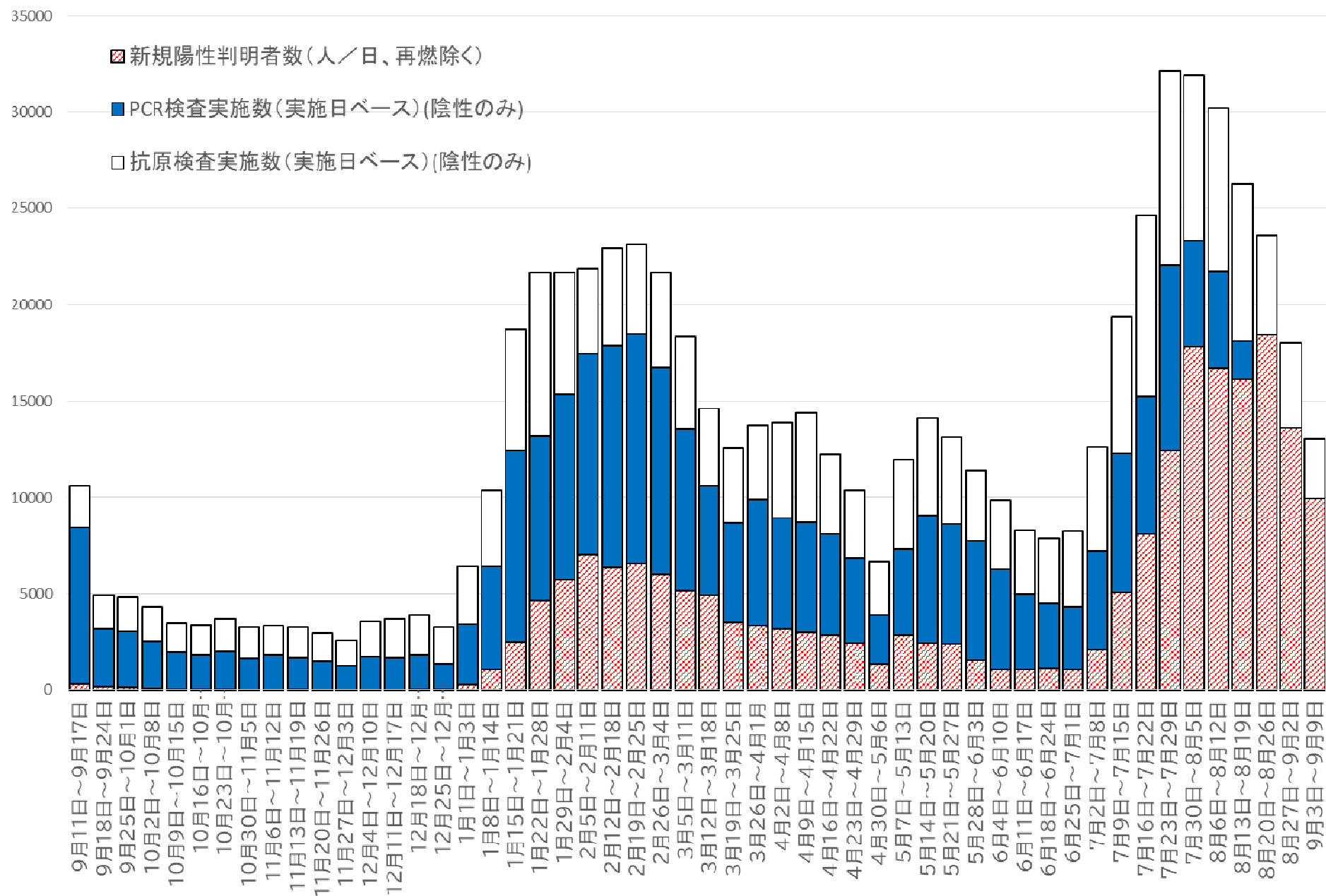
0人



### 3)入院医療体制について



## 4)PCR等検査の状況(陰性確認を除く)



## 5)陽性率(7日間移動平均)

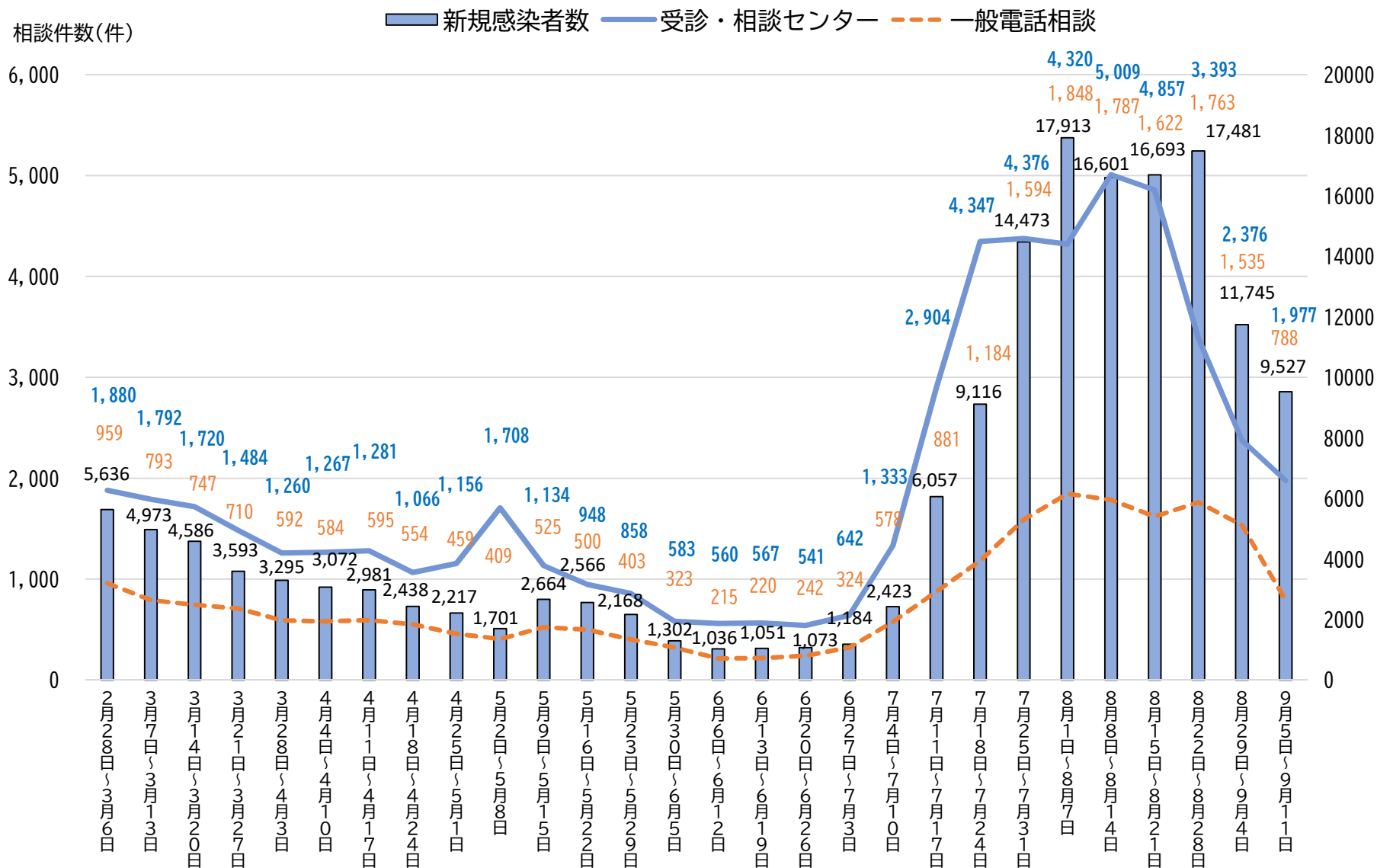


陽性率の7日間の移動平均（その日までの7日間の平均）を見ると、9月9日現在の陽性率は88.6%でした。※検査実施日ごとの報告件数（抗原検査を含む）に基づく陽性率

# 6) 相談体制について

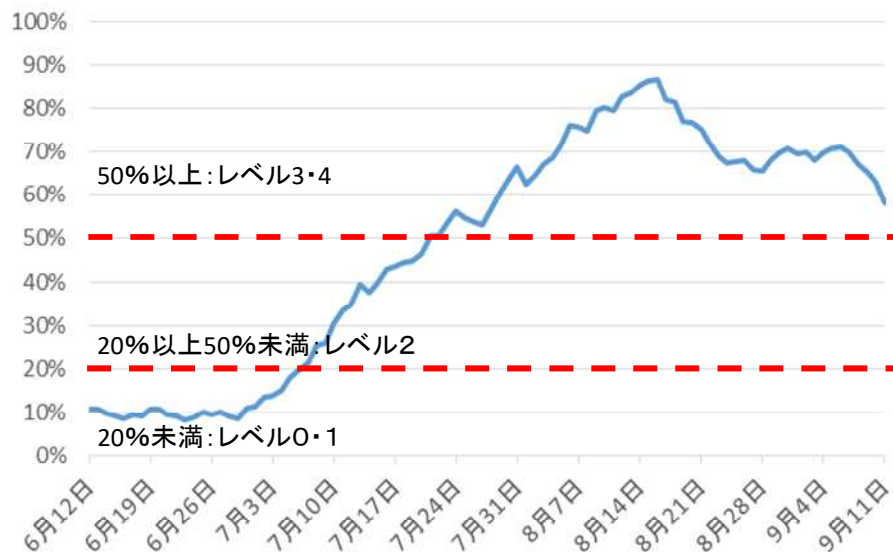
## 相談件数と新規感染者数 (週計)

新規感染者数(人)

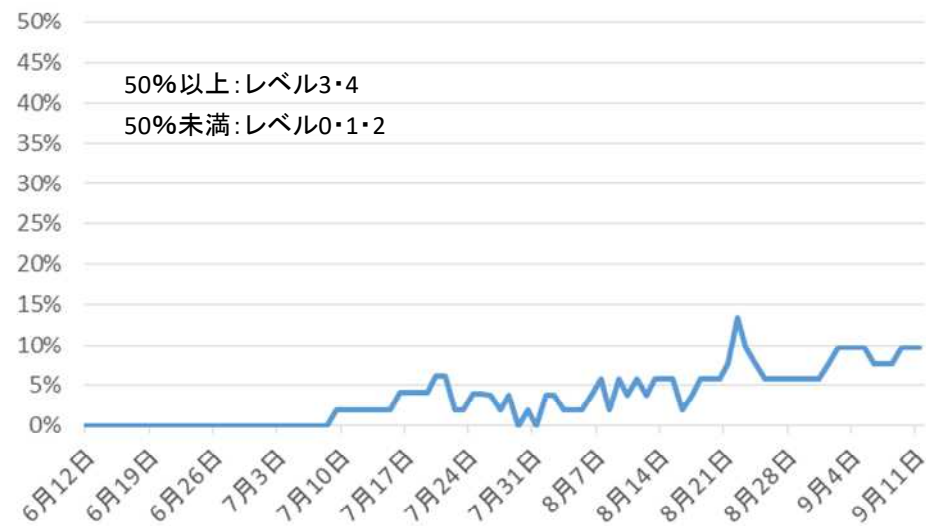


# 7)その他の県内の感染動向

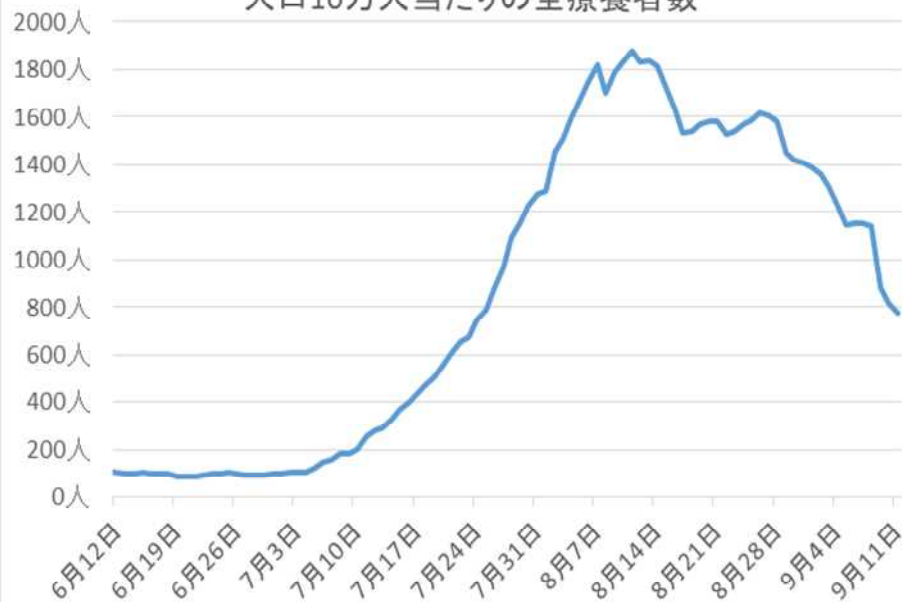
最大確保病床の占有率



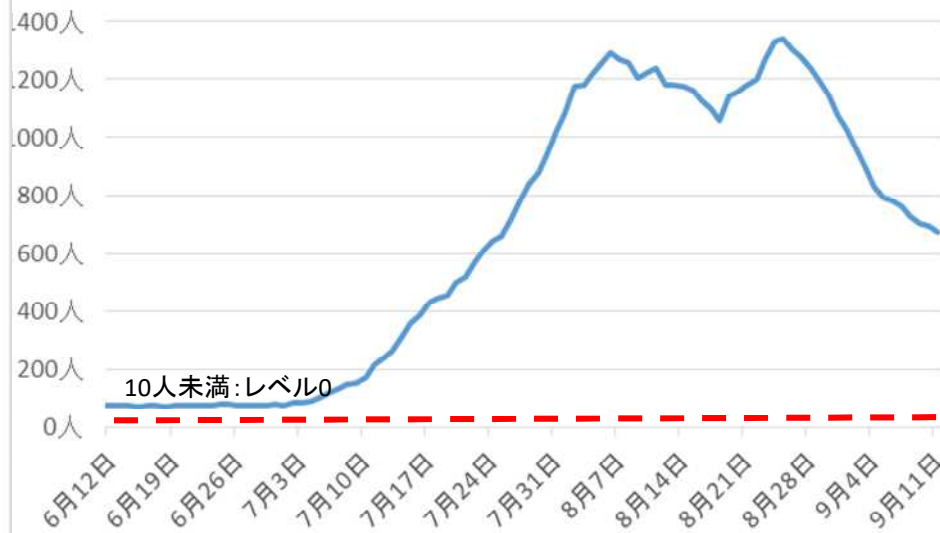
重症者用病床の最大確保病床の占有率



人口10万人当たりの全療養者数



直近1週間における人口10万人  
当たりの新規報告数



## 評価(9/5~9/11の感染状況)

- 新規陽性者数は、全国的に減少傾向が見られています。しかし、感染者数としては依然として多く報告されており、亡くられる方も日々多く報告されている状態です。
- 本県も同様に8月26日以降17日連続で前週の同じ曜日を下回っており、今週先週比は0.81、直近1週間における人口10万人当たりの新規報告数は673.8人で減少傾向にあります。年代別では、20歳代以上で減少傾向がありますが、60歳以上の減少幅は小さくなっています。10歳未満と10歳代では横ばいとなっており、学校の新学期が始まった影響が考えられます。
- 最大確保病床に対する占有率は9月11日時点で58.2%と低下傾向にありますが、高い水準となっています。自宅療養者等は約1万人で減少傾向にありますが、継続して入院医療・外来医療への影響が見られています。新規陽性者数の増加に遅れて中等症、重症患者が増加するとされており、医療は非常事態にあり、今後も病床のひっ迫等の状況を注視する必要があります。
- 9月7日に療養期間の見直しがされましたが、ウイルスの感染性には変わりはありません。療養期間終了後も有症状患者は10日間が経過するまで、無症状患者は7日間が経過するまでは感染リスクがあり、適切な感染対策を行う必要があります。水際対策も緩和されることから、今後の感染動向を注視する必要があります。
- 現在、行動制限はありませんが、手洗い、場面に応じたマスク着用、常時換気など基本的な感染対策の実践をお願いします。特に高齢者等ハイリスクの方との関わりがある方は、より慎重に感染対策を実施するようにしてください。
- 高齢者施設、障害者施設等でクラスターが多発しており、施設内感染の予防を徹底する必要があります。また、陽性者が施設内で療養する場合であっても治療を提供できるように、嘱託医や協力医療機関と事前に調整しておくことが必要です。
- ワクチン接種についても、効果は徐々に減弱します。3回目・4回目の追加接種の対象者は計画的な接種が必要です。50歳未満の若い年代の一層のワクチン接種を進めることも重要です。